

中学校教員ら安全な柔道の指導を学ぶ



中学校の武道必修化を受けて、6月26日、柔道の指導者研修会が三松中学校で行われました。西諸県地区11中学校の保健体育科教員ら20人が参加。実技を加え、安全な指導と技などの練習方法について理解を深めました。

地域に根差した安心安全なまちづくりを



7月1日、第62回社会を明るくする運動強調月間スタートし、2日、市役所でメッセージ伝達式が行われました。小林地区保護司会窪田英二会長が法務大臣メッセージを代読。式後、街頭キャンペーンも行いました。

放射線について正しい理解を深める



7月12日、小林中央公民館で市内小中学校の教師が放射線について学ぶセミナーがありました。文部科学省の協力で専門家を招き開催。簡易測定器による実習や子どもたちへの指導のあり方についてワークショップを行いました。

迫力の音と光で2万人魅了
小林市すき納涼花火大会



7月14日、須木中のグラウンドを会場に、小林市すき納涼花火大会が開催されました。天気に恵まれた今回は、市内外から約2万人が来場。須木地区の子どもたちによるいちょう太鼓や、都城泉ヶ丘高校ダンス部の演舞、小林幼稚園のかわいらしいダンスで会場を盛り上げます。そして、メインイベントは山々に鳴り響く迫力の花火。趣向を凝らしたものや、連発など約5千発の花火が上がるたびに、会場からは歓声と拍手が起きていました。

3年ぶりに復活
青年団がドロスポを開催

7月1日、小林市青年団協議会が南西方の水田でドロスポ2012を開催しました。平成21年以来3年ぶりとなった今回は、市内外から約40人の若者が参加。4種目のゲームやフォークダンスを行い、参加者が足を取られ、泥のしぶきが飛ぶたびに、会場は笑い歓声に包まれました。



小林市青年団の中原加晴会長は「参加者が楽しんでくれて良かった。小林市の若者が元気になるイベントになれば」と話していました

もりおかなかず
森岡一男さんが秀峰高校に
教材として黒毛和牛を寄贈

7月6日、市内の和牛農家である森岡一男さんが小林秀峰高校の農業科の教材として黒毛和牛1頭を寄贈しました。森岡さんは「日本の畜産を背負っていく人材に育ててほしい」と生徒にあいさつ。同校農業科2年の荒武拓也さんは「森岡さんの期待に応えられるよう大きく成長することを約束する」と謝辞を述べました。



寄贈された牛は森岡さんが5月のセリで購入した雌の子牛「ななみ号」優等賞も受賞した素晴らしい牛です



ゲームの最中に高齢者にインタビュー。交流会後は高齢者から「若く元気な姿を見ると若返った気がする」と感想がありました

いつまでもお元気で
東方小児童が高齢者と交流会

6月25日、東方小の6年生が特別養護老人ホーム陽光の里のデイサービス利用者と交流しました。ゲームで交流を深めたほか、同小の校歌や「水戸黄門のテーマ」などを児童がリコーダーの演奏を交え発表。最後は手作りの品でプレゼント交換を行い、笑顔で交流を深めていました。



感謝状を受けた東原健二さん【前列右から2番目】と橋満正春さん【前列左から2番目】

東原健二さん・橋満正春さん
火災で住民を救助し感謝状

6月28日、西諸広域行政事務組合消防本部は東原健二さんと橋満正春さんに感謝状を贈呈しました。二人は、5月にあった県営三松団地の火災で出火している部屋に突入し、寝ていた高校生を救助。当時について「互いに協力できた。一人ではできなかったかもしれない」と話していました。